学校運営協議会議事録

日　時	令和８年（2026 年）10 月 15 日（木）14 時 45 分～16 時 50 分	
会　場	北海道鷹栖養護学校	
出席者	運営協議会委員７名	学校側６名
出席者	北海道鷹栖養護学校学校運営協議会会長 北海道鷹栖養護学校後援会会長 北海道鷹栖養護学校ＰＴＡ会長 社会福祉法人鷹栖共生会理事長 元北海道特別支援学校長 一般社団法人北野コミュニティセンター理事・集落支援員 北海道鷹栖養護学校長	副校長　　教頭 小学部主事 中学部主事 高等部主事 寮務主任 ・協議運営協力・助言者 上川教育局教育支援課社会教育指導班及び学校教育指導班

議　事	内　容
１　開会	・会長より：前回の第１回目につきましては皆様から活発なご意見をいただき、誠にありがとうございます。今回につきましても、それぞれの立場から活発なご意見・ご審議をいただけますようお願い申し上げます。 ・校長あいさつ：本日は、全職員と一緒に協議をしていく時間を取りたいと思っています。第 1 回目から学校はたくさんいろんなことを取り組んできました。第 1 回目でいただいた意見を参考にして動けたこと、まだ動けていないこと、いろいろあると思いますので、今日たくさんの意見をいただきたいと思います。
２　説明	(1) 学校教育活動の前期評価のまとめ（校長より） ア　一人一人に合った教育の実現 ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をテーマに、大学教員の助言を受けながら授業改善を推進している。12 月の公開研究会に向けて準備を進めています。 イ　自分の思いを表現できる学校 ・各学部それぞれで体育的行事を実施するとともに、言葉や身振りなど、一人一人に合った方法で自分の思いを表現する力を育んでいます。 ウ　保護者・地域と共に進める教育活動 ・地域行事への参加や交流及び共同学習を通して、地域とのつながりを深めています。今後は、学校の魅力発信や後援会会員・ボランティアの拡充に向け、地域との連携をさらに進めていきます。 (2) 各学部及び寄宿舎の取組状況 ア　小学部：学校間交流や読み聞かせ、夏祭り、作品展示、地域学習、米作り体験などを通して、地域との交流や体験的な学びを充実させています。 イ　中学部：新聞回収や駐車場のライン引き、校内環境整備などの地域体験作業に取り組むとともに、鷹栖中学校との交流や農家と連携した体験活動を進めています。 ウ　高等部：作業学習の充実を図り、防災無線の清掃や農産物のラベル加工など、作業学習の充実を図っています。また、職場体験実習を通して、働く喜びや達成感を味わい、一人一人の適性理解や進路選択につなげています。 エ　寄宿舎：婦人ボランティアによる花壇整備や読み聞かせ、青年部や婦人ボランティアとの七夕・夏祭りなど、長年続く地域との交流を大切にしながら、児童生徒の余暇活動の充実を図っています。

	(3) 地域学校協働活動の計画、実施、評価、改善についての熟議 学校と地域が連携した取組について、委員の皆様から多くの意見や感想が寄せられました ・コミュニティセンターの駐車場のライン引きでは、児童生徒が挨拶を交わしながら一生懸命に取り組む姿に感謝の声が寄せられ、今後も学校と地域が協力して活動を進めていくことへの期待が示されました。 ・各学部の地域活動や交流学習、現場実習について、児童生徒一人一人の得意なことや苦手なことに応じた工夫、活動に向けた事前学習の進め方などについて意見交換が行われました。児童生徒の活動が地域の方々にもよい影響を与え、双方の学びにつながっていることが確認されました。 ・中学校との交流活動や、たかよう協力隊の取組を参考にした PTA と地域との連携についても話題となり、後援会や PTA としても、学校や地域と協力しながら活動を広げていきたいとの意見がありました。 ・教育委員会からは、学校や児童生徒の取組に対して感謝の言葉が寄せられ、これらの活動は共生社会の実現に向けた大切な取組であるとして、今後の継続と発展への期待が示されました。 学校からは、今後も、学校・家庭・地域が互いに連携し、児童生徒の学びと成長を支える教育活動を進めていきます。
3　見学	寄宿舎見学
4　協議	上川教育局教育支援課社会教育指導班の協力のもと、コミュニティ・スクールにおける学校運営協議会の役割や、学校と地域が連携・協働する意義について理解を深めた後、３つのテーマに分かれて熟議を行いました。 ・「生徒の力を生かした地域貢献・社会参加」では、製品販売や清掃、公園整備、農業、木工など、地域の専門家や事業所と連携した活動が提案されました。 ・「日常の学びと地域をつなぐ交流及び共同学習」では、小学校との交流や買い物学習、農業体験、地域施設の活用など、学びを地域へ広げる取組について意見が交わされました。 ・「地域人材とつながる持続可能な協力体制づくり」では、「たかよう協力隊」の活用や地域行事への参加、販売会への地域住民の招待など、継続的な交流に向けたアイデアが出されました。 最後に、上川教育局から、行政や地域の専門家等と連携し、実現が難しいと決めつけず、前向きにアイデアを具体化していくことの大切さについて助言がありました。今後も、地域とのつながりを深めながら、生徒の学びと社会参加の充実を目指していきます。
5　閉会	校長より、上川教育局や委員の皆様へ深く謝意を述べ、鷹栖町の恵まれた環境を教育活動に活かすための多くのヒントが得られたと振り返った。その上で、教職員自らがまず行動を起こすことが、子どもたちのお手本になることを職員に伝えた。具体的には他校の事例にならい、地域行事に積極的に参画・貢献していくことや、町のキャラクター「あったかすくん」を活用した作業学習での製品制作や後援会との連携を提案し、学校と町が一体となって動く重要性を強調した。教職員全員で町を動かしていく意気込みで、本気で取り組んでいきたいと呼びかけた。